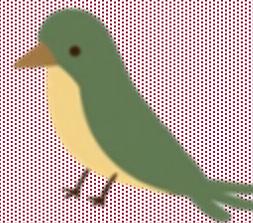


FD NEWS

～名城大生の授業外学習時間について考える～

Contents

1. 名城大生の授業外学習時間について
2. FD・SDフォーラム「大学生の授業外学習時間について考える」の概要について
3. 大学教育開発センターの学生支援
4. 刊行物の紹介



発行にあたって

平成24年8月に中央教育審議会から答申された「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」では、「学士力」を育むためには主体的な学修を促す学士課程教育の質的転換が必要と提言されました。さらにこの答申では、学生が主体的な学修の体験を重ねる質を伴った学修時間が必要にも拘わらず、学生の学修時間は米国の学生と比較しても短いことが課題として挙げられました。また、令和4年度の大学設置基準改正においても、「1単位の授業科目について、授業時間外の学修時間も含めた45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする」ことが改めて確認されていることから、単位の実質化の観点から、授業時間外の学修時間をいかに確保するかは重要なテーマになってきています。

本稿では、2023年11月2日に開催した「FD・SDフォーラム」の概要を紹介しつつ、学生の授業外学習の確保の重要性について理解を深めたいと思います。

1. 名城大生の授業外学習時間について

1) 学士課程教育の現状と学修時間

日本の大学教育は単位制度を基本としています。1単位当たり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準とされており、ここでいう1単位あたりの学修時間には、授業時間内の学修時間だけではなく、その授業の事前の準備学修・事後の復習を合わせたものになっています。しかしながら、平成24年8月に中央教育審議会から答申された「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」では、この学修時間の短さが課題として挙げられました。具体的には、卒業の要件は原則として4年以上の在学と124単位以上の単位修得であることを踏まえると、学期中の一日当たりの総学修時間は8時間程度であることが前提とされているにも拘わらず、実際には、我が国の学生の学修時間はその半分の一日4.6時間にとどまるという調査も出ており、アメリカの学生と比較しても極めて短いといった指摘です。この答申では、学修時間に着目する理由として、以下の3点を挙げています。

- ・教育課程の基準が法令で定められ、授業時数を中心に教育課程が編成されている初等中等教育とは異なり、学生が主体的に事前の準備、授業の受講、事後の展開という学修の過程に一定時間をかけて取り組むことをもって単位を授与し、また、このような学修経験を組織的、体系的に深めることをもって学位を授与するというのが大学制度であるため。
- ・学士課程教育の改善については様々な手法や着眼点が考えられるが、学修時間は、大学ごとの学士課程教育の内容・方法の自律性や多様性を確保しつつ、大学間の制度的な共通性を維持し、学士課程教育の質的転換に向けた好循環の始点となる指標として活用できる基本的な条件であるため。
- ・学士課程教育における質を伴った学修時間の確保は、世界的にも学士課程教育の質の保証が課題になる中で、国際的な信頼の指標として不可欠であるため。

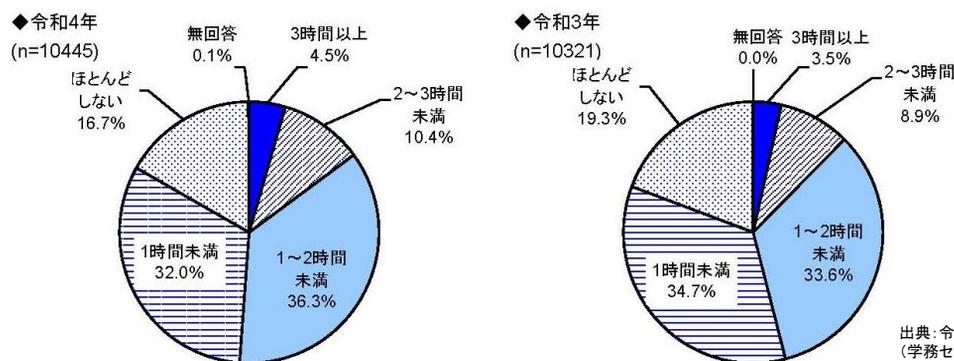
最後にこの答申では、学修時間の実質的な増加・確保は、①教育課程の体系化、②組織的な教育の充実、③シラバスの充実、④全学的な教学マネジメントの確率、の4点の諸方策と連なって進めることの必要性を提言しています。

2) 本学の現状

ここからは、本学の学生の授業外学修時間の状況を見ていきます。本学では、毎年、学務センターにおいて、学生アンケートを実施しており、質問項目の一つとして授業期間中の自学自習時間を聞いています。

問. 授業期間中の自学自習(予習・復習・課題など)の時間は、1日平均何時間くらいですか。

(対面授業・WebClassでの課題、授業にかかわる読書(テキスト・参考文献以外も含む)、研究室・ゼミ・授業の友人との議論、フィールドワークなどの時間も含む)



大学全体で見ると、1時間未満の学生の数の比率は低下してきてはいるものの、まだ約半数を占めており、単位の考え方からしても十分に学修時間を確保しているとは言い難い現状にはあります。

なお、この結果は大学全体で集計したものであり、当然のことながら、学年や学部によって大きな差はあります。

3) 学生の授業外学修時間を増やすためには

ここまで、学生の学修時間が求められる背景や本学の現状について見てきました。特に授業外学修時間を増大させるためには、学生の自学自習に対する動機づけと授業の在り方の両面から考える必要があります。例えば動機づけの観点では、学習内容と社会とどのように繋がっているのかなど、将来、どのように役立つのか理解することで自律的なやる気に繋がるかもしれません。また、授業外学修時間を考える上で、CAP制度の在り方も見直す必要があるかもしれませんし、個々の授業における課題や宿題の提示の工夫、反転授業の導入なども考えられます。

最後に、単位の実質化のためには授業外学修時間は重要ではあり、増やす努力は必要です。しかしながら、目的はあくまでも学生の主体的な学びであり、学士課程の質的転換であるため、「時間」という量的側面だけにとらわれてはならないとも考えます。

2. FD・SDフォーラム「大学生の授業外学習時間について考える」の概要について

2023年11月2日、ZOOMによるオンラインにて、(株)ベネッセiキャリア まなびとはたらくをつなぐ研究所の村山和生氏、本学都市情報学部の酒井順哉教授による「大学生の授業外学習時間について考える」と題したFD・SDフォーラムを開催しました。概要は以下の通りです。



1. 基調講演「大学生の学習状況について～全国データからの考察～」

村山 和生 氏 (株)ベネッセiキャリア まなびとはたらくをつなぐ研究所 主席研究員)

全国データで見る大学生の学習状況は、文部科学省が実施した令和4年度「全国学生調査」の結果においても、「予習・復習・課題などの授業外学習時間」は、週5時間以下の学生が半数を占め、1単位に45時間の学修を必要とする単位制度の趣旨に鑑みても大きな課題が残っている。一方で、ベネッセ教育総合研究が実施した「大学生の学習・生活実態調査」(2021年12月実施)の結果においては「大学生の授業に対する取り組み状況」を2008年度の実施結果と比較すると、2021年度はアクティブ・ラーニング授業を通じて、グループワークやディスカッションで自分の意見を述べたり、授業で興味を持ったことや分からないことは自分で調べる学生が増えていることが見えてきた。これは、高校での学習に、グループワークや人前で発表する機会が増え、自分で調べる学習を経験してきたことも要因と考える。

「学習する学生」と「学習しない学生」の違いは、ベネッセiキャリアが提供する「GPS-Academic」(2022年度3年生テスト、2020年度1年生テスト)の調査結果によれば、学習量が多い学生は読書量も多く、授業時にしっかりメモをとる行動が見られ、思考力も高い結果となっている。

大学卒業者が社会に出てからも求められる資質は「主体性」「協調性」「実行力」が高く、能力は「課題設定・解決力」「論理的思考力」、知識は「文系・理系の枠を超えた知識・教養」が高く求められている。このような資質・能力を身につけるには、学生自身が「領域を超えたカリキュラム」を選択し、その中で「ラーニング・クラフティング(自分の考えを深め、学びと社会をつなげる)」により自分の学びを意味づけし、「能動的に学ぶ」ことが、効果的である。これにより、社会人での学び特性が形成され、「幸せな活躍」につながる可能性が高い。

現状は大学生の授業外学修時間は十分とは言えないが、まずは「学ぶ意味付け」からスタートすることで「主体的な学び」が促され、授業外学修時間の増大にもつながる可能性が高いと考えたと締めくくった。

2. 事例報告「授業満足度調査から改善してきた主体的な学びの取り組み事例」

酒井 順哉 氏 (都市情報学部 教授)

本学都市情報学部が1995年に可児キャンパスに新設されて以来、学部レベルや教員レベルで様々な改善を重ねてきた。また、学生の学習意欲と社会人基礎力が高いほど就職企業の評価が高いことから、酒井ゼミにおいて、2008年から社会人基礎力の3要素である「Action(前に踏み出す力)」「Teamwork(チームで働く力)」「Thinking(考え抜く力)」を伸ばさせるため、ゼミ活動にこれらのプログラムを取り入れて効果があったことを受け、2017年からは都市情報学部全体に社会人基礎力診断テストを拡大させた。

酒井教授が担当する科目においては、全学レベルで実施した「授業改善アンケート」とともに、独自「授業満足度調査」の調査結果を通じて、様々な改善に取り組んだ。

授業への確実な出席と静粛な講義環境を配慮するとともに、授業中の随所で実施する理解度テスト(マークシート5問)にて出席確認と学生の理解度を把握し、さらに独自「授業満足度調査」を実施し、授業改善をしてきた。例えば、授業のポイントをまとめた「サブノート」を作成し、重要項目を学生に穴埋めさせていたが、「授業満足度調査」による学生の声を踏まえ、印刷様式や内容を改善した。

COVID19感染拡大により遠隔授業に切り替わり、大学で遠隔授業の環境整備がされたことから、授業方法は大きく変わった。「サブノート」の配布は、本学のLMSである「WebClass」にPDFデータで掲載し、講義動画(MP4形式)の配信、確認テスト・レポート課題も「WebClass」にて実施し、COVID19感染拡大以前と同等の教育を提供してきた。

COVID19感染拡大以降は、対面授業でPowerPointスライドに液晶ペンタブレットを使用した講義も取り入れ、分かりやすい授業を目指しながら、「サブノート」や講義動画(MP4形式)の提供、確認テスト・レポート課題の作問・解答集計は「WebClass」を活用し、要点を20分程度にまとめた音声資料動画をWebClassに提示し、いつでも予習・復習に活用できるよう工夫した。

様々な授業の工夫の結果、2023年度の独自「授業満足度調査」では「サブノート」と講義動画の満足度は8割以上、将来の役立ち度は9割以上となり、全体的に授業満足度や学生の理解度が向上した。

このように、静粛な講義環境の確保や予習・復習材料の提供などを行い、学生の授業外学修時間が増え、理解度も上がり、将来役立つ授業となった事例の紹介をした。

3. 入学前教育の充実

本学では、学校推薦型選抜合格者や総合型選抜合格者を対象として、入学前学習プログラム(通称:MEGプログラム)を提供しています。このプログラムは、入学までの学習習慣を維持し、基礎学力の補習と向上、未履修科目や苦手科目の克服を目的としています。

今年度、MEGプログラムは約20年ぶりに大規模な改定を行いました。この改定により、各学科は入学後の学びが円滑に進められるように受講対象科目を再検討し、受講科目は従来の2科目から3科目へと変更されました。これらの科目は、映像授業や添削課題を通じて、深く学ぶことが可能となっています。

さらに、今年度からは一般選抜合格者も含む全入学者に対して、以下の入学前自校教育動画の視聴と関連課題の提出を課しました。これらを通じて、学生が本学の歴史や学びを理解し、本学での学習に対するイメージを形成し、入学後のモチベーションが高まることが期待されています。

入学前自校教育動画については、以下のQRコードから視聴できますので、興味関心のある方は是非ご視聴ください。



「入学前自校教育動画」

https://www.youtube.com/playlist?list=PLd0yT4Yilk7TNFzOhoiQx_rrsqIb8FbW



動画①「名城大学の概要」



動画②「名城大学の歴史」



動画③「名城大学の学び」



動画④「学生の声」

4. 刊行物の紹介

本学ホームページで、各種刊行物を公開しています。
2023年度版は、2024年3月末頃に更新予定です。ぜひ閲覧ください。

FD・SD活動報告書

<https://www.meijo-u.ac.jp/academics/education/center/publication/action.html>

教育年報

<https://www.meijo-u.ac.jp/academics/education/center/publication/annual/>

授業改善アンケート調査結果報告書

<https://www.meijo-u.ac.jp/academics/education/fd/survey.html>

過去のFD・SD企画の動画はこちら→ <http://ccdmrec1.meijo-u.ac.jp/pcsweb/> (学内からアクセス)
ログイン用のID/PWは、個人ID/PWではありませんので、統合ポータルサイト「お知らせ」からご確認をお願いします。

Meijo University

名城大学 大学教育開発センター 〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地
TEL (052)838-2032 E-mail: edcenter@ccml.meijo-u.ac.jp

